

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

企業会計名	決算書(P)	部局名	都市整備部
水道事業会計	—	課 名	水道課

I：事業概要

施策事業名	水道事業 収益的収支事業
事業目的	水道使用者に安心・安全な水道水を安定供給する。
事業内容	●全体計画 ・市内全域に対し水道水を配水する。 ●主な事業内容 ○原水及び浄水費 667,542,413円 ・主に水道水の製造等に要する費用及び浄水場等の維持管理費 ・県営水道受水費、浄水場運転管理業務委託 等 ○配水及び給水費 88,988,941円 ・主に水道管等の維持管理費 ・給配水管等修繕、量水器取替業務委託 等 ○受託工事費 1,616,482円 ・主に消火栓等修繕、下水道関連切廻し工事 等 ○総係費 123,254,092円 ・主に料金調定・徴収及び一般事務費 ・料金徴収業務等委託 等 ○減価償却費 344,322,213円 ・固定資産減価償却費 ○資産減耗費 24,096,937円 ・主に固定資産除却費 等 ○営業外費用 56,315円 ・その他雑支出 ○特別損失 220,536円 ・過年度損益修正損
事業の成果・効果	水道水を市内全域31,917戸に対し、年間約887万立方メートルを配水した。 水道使用者に安全で良質な水道水を安定的に供給できるように、浄水場施設や水道管の維持管理をおこなった。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総点検進捗評価は4段階)

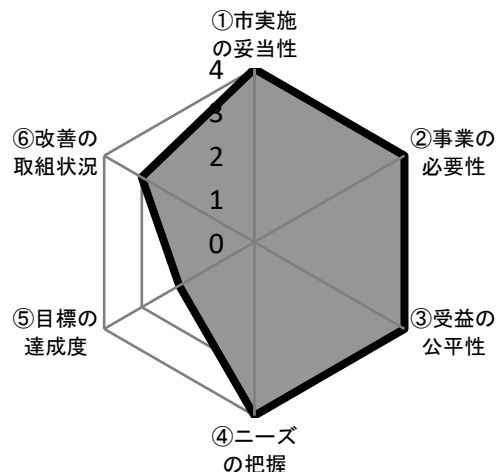
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	報発信・共有	業務適正化
原水及び浄水費	667,542	667,542	0	0%	4	3	3
配水及び給水費	88,989	88,989	0	0%	3	3	3
受託工事費	1,617	1,617	0	0%	4	2	3
総係費	123,254	123,254	0	0%	3	3	3
減価償却費	344,322	344,322	0	0%	4	2	4
資産減耗費	24,097	24,097	0	0%	4	2	4
雑支出・消費税・過年度損益修正損・予備費	277	277	0	0%	4	2	4
合計	1,250,098	1,250,098	0	0%	3	2	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		1,205,122	1,250,098	1,396,231
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	1,205,122	1,250,098	1,396,231
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	水道法第6条により市で実施。
②事業の必要性	4	市民の生活に欠かせない水を供給する事業であり、継続実施が必須の事業である。
③受益の公平性	4	ほぼすべての市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	4	市民が生活を営む上で必ず必要で、ニーズはある。
⑤目標の達成度	2	年間を通じ安定した給水に努めた。給水量は予定水量比△0.8%で、収入は予算比△1.3%となった。有収率は前年実績を3.0%下回った。
⑥改善の取組状況	3	有価証券による資金の運用を始め、収入確保（貸付利息）に努めた。

Ⅴ：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	・有価証券による資金の運用を始め、収入確保（貸付利息）に努めた。
令和7年度に見直しを実施している事項	・犬山市水道事業の現状および課題を把握し、より詳細な財政の見直しを検討し、経営戦略検討委員会をとおして現在の水道料金のあり方について検証を行うとともに、経営戦略の改定を行う。
今後見直しを検討する事項	・引き続き、経営戦略検討委員会をとおして現在の水道料金のあり方について検証を行うとともに、経営戦略の改定を行う。 ・漏水調査の発見率向上のため、新技術の導入を図る。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
・節水や人口減少の傾向により、家事用の給水収益が減少していくことが見込まれる。 ・県営水道の料金改定等による費用が増加しており、今後更なる増加が見込まれる。 ・常に安定した給水を行うため、管路及び浄配水施設の維持修繕を行う必要がある。 ・有収率を向上させる必要がある。	・県営水道の料金改定等による営業費用の増加を反映した収支見直しを行い、経営戦略検討委員会をとおして現在の水道料金のあり方について検証を行う。 ・費用削減の自助努力と水道水の安定供給のため、漏水箇所の早期発見と補修を行い、有収率を向上させる。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

企業会計名	決算書 (P)	部局名	都市整備部
水道事業会計	—	課 名	水道課

I：事業概要

施策事業名	水道事業 資本的収支事業
事業目的	水道使用者に安心・安全な水道水を安定的に供給し、また、災害時においても安定して給水ができるよう改修等を実施する。
事業内容	●全体計画 ・市内に張り巡らされた水道管及び浄配水施設の耐震化も含め設備更新等を実施 ●主な事業内容 ○施設増補改良費 531,459,821円 ・主に配水管布設替及び浄配水施設の更新・改良 ・配水管布設替工事 五郎丸 L=約300m 長者町団地 L=約280m 犬山西古券（下水関連）L=約230m 前原向屋敷 L=約160m 他市内各所で布設替を実施 ・消火栓設置工事 ・給水申込関連布設工事 ・第二加圧所耐震化工事 ・犬山配水場3号揚水ポンプ更新工事 等 ○営業設備費 1,275,870円 ・主に量水器等の機械装置購入 等 ○投資有価証券 100,000,000円 ・有価証券の購入
事業の成果・効果	配水管等改良事業においては、長者町団地、前原向屋敷をはじめとした市内各所で配水管の布設替及び布設工事を実施した。 令和6年度の配水管等の改良延長は、約2.1キロメートル実施した。 配水管等の布設替及び布設工事にあたっては、耐震性のある管材を使用し、耐震化を図った。 浄配水施設においては、第二加圧所耐震化工事、犬山配水場3号揚水ポンプ更新工事等を実施した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総点検進捗評価は4段階)

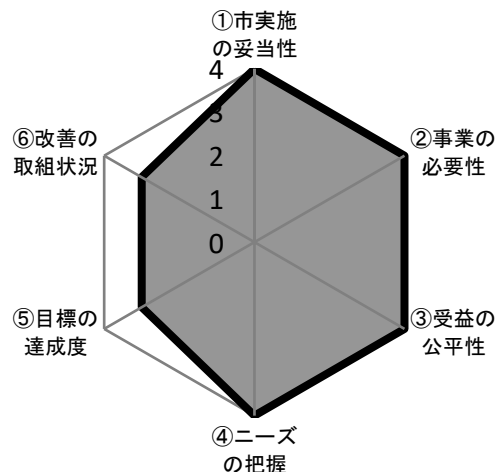
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	報発信・共有	業務適正化
施設増補改良費	531,460	531,460	0	0%	3	3	3
営業設備費	1,276	1,276	0	0%	4	2	4
投資有価証券	100,000	100,000	0	0%	4	2	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	632,736	632,736	0	0%	3	2	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		550,765	632,736	483,630
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	550,765	632,736	483,630
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	水道法第6条により市で実施。
②事業の必要性	4	市民の生活に欠かせない水を供給する事業であり、継続実施が必須の事業である。
③受益の公平性	4	ほぼすべての市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	4	市民が生活を営む上で必ず必要で、ニーズはある。
⑤目標の達成度	3	配水管等の改良延長については、鉄道軌道下及び大口径管の工事を実施し、約2.1kmの実績となった。
⑥改善の取組状況	3	浄水施設の耐震化を図るため、第2加圧所の耐震化工事を実施した。

Ⅴ：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	・管路更新計画に基づき、重要箇所の布設替を進め、配水管網の健全性を維持して水道水の安定供給に努めた。施設については、配水施設の耐震化を図るため、第二加圧所の耐震化工事を実施した。 ・資産の現状と将来の更新需要を明らかにするアセットマネジメントを策定した。
令和7年度に見直しを実施している事項	・漏水調査等による重点箇所のほか、引き続き重要箇所の布設替を進め、配水管網の健全性を維持して水道水の安定供給に努める。
今後見直しを検討する事項	・引き続き自己水系の有効活用を図るため、給水区域の見直しを検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
節水や人口減少の傾向により、家事用の給水収益が減少していくことが見込まれる一方で、常に安定した給水が行えるようにするためには、管路及び浄配水施設の更新を継続して行う必要がある。	将来の水需要の動向等を踏まえた水道施設等の整備計画（基本計画）に基づく経営戦略の改定を行い、毎年継続的な更新投資を行い、市民に安全安心な水道水を安定的に供給していく。